

財団の概要

(1) 設立及び目的

当財団は、従来から文化活動の場と機会を提供する町田市民ホールの事業運営を行っていた「町田市文化振興公社」と市民が国際交流活動の中心となって、主体的・創造的な活動を行っていた「町田国際協会」が統合され、「財団法人町田市文化・国際交流財団」として2004年4月に町田市により設立されました。

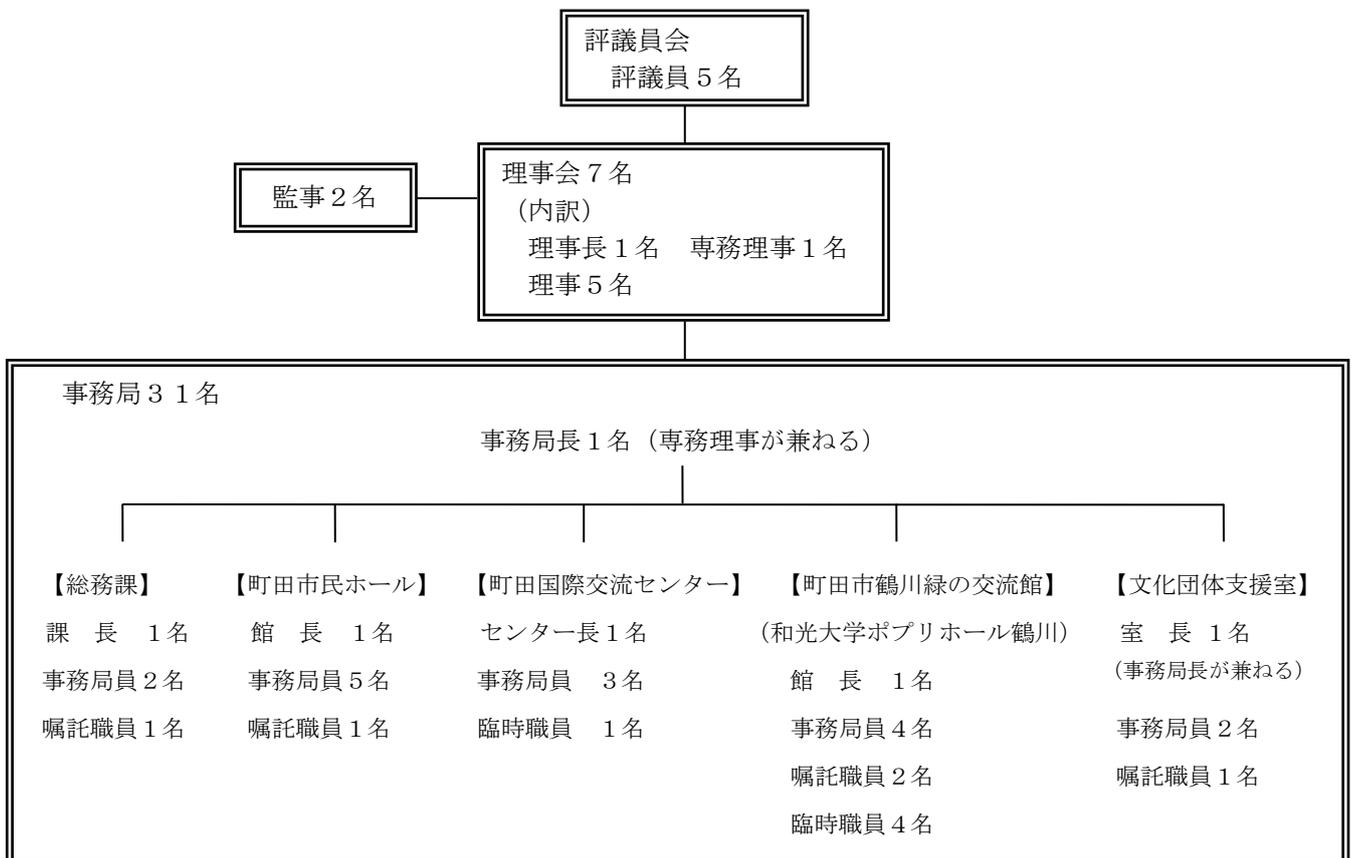
設立された財団は、「地域文化を創造し、その発展を図るとともに、市民活動充実のための支援、地域における国際交流活動の推進を図り、もって文化の香り高く国際感覚豊かなまちづくりに寄与する」ことを目的としております。

その後、公益法人制度の改正に伴い、2011年4月に「一般財団法人町田市文化・国際交流財団」として新たにスタートし、現在は、町田市民ホール、町田市鶴川緑の交流館（以下「和光大学ポプリホール鶴川」という）及び町田国際交流センターで主な事業活動を行っています。

町田市民ホールは2006年4月から、和光大学ポプリホール鶴川は2012年9月から、各々の施設で指定管理者として管理しておりましたが、2022年4月からは新たに両施設を一体で2027年3月末までの5年間、指定管理者の指定を受けることができました。

(2) 基本財産 300万円（町田市からの出捐金）

(3) 組織図 (2022年3月31日現在)



事業報告

2021年度も新型コロナウイルス感染症拡大による大きな影響を受け、財団の運営状況は厳しい状況でした。

施設利用に伴うガイドライン及びチェックリストを作成し、安全安心に施設をご利用いただくために、手指の消毒、マスクの着用、三密の回避等の感染防止対策を徹底するとともに、入場者の定員を50%以下におさえる等、安心して公演を鑑賞していただけるよう対策を行うとともに、国及び都等の補助金を申請し、財務基盤の安定に努めました。また、町田国際交流センターでは、オンラインを活用して活動の継続を試みました。コロナ禍においても、公演を鑑賞し楽しむ機会を提供することにより文化の振興に寄与し、国際交流を推進し外国人と市民との友好の輪が広まるよう貢献しました。

しかしながら、町田市民ホールは2021年11月から15ヶ月間の修繕工事により休館となり、思うように事業が実施できないのが現状です。町田市民フォーラム3階に窓口業務を、せりがや会館2階に器材の保管と文化団体支援室業務を、町田市役所近隣に総務業務を行うための事務所を開設して業務を行っています。今後は、休館中の事業のあり方やリニューアルオープン後の事業の計画などを見直し、時代の変化に対応しながら、出来るだけ早い時期に活気を取り戻し、安全に安心して楽しめる事業を提供できるよう努めてまいります。

◎ 芸術文化及び市民文化の向上に関する事業（第1号事業）

1 文化活動の支援及び市民参加型事業

2020年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症に関する支援策や助成金等の情報を文化団体の皆様などに情報提供を行いました。2021年度も中止になった公演が多くありましたが、定員や利用時間など施設の利用制限の中でも事業が実施できるよう、各団体と連携し無観客や配信による事業など、方法を変えて実施に至ったケースもありました。例えば、町田市民ホールでは町田フィルハーモニー交響楽団との配信公演、絵画造形教室アトリエ・アルケミストとの子ども向けワークショップなど、オンライン配信公演や少人数のイベントなどコロナ禍でも実施できる新しい形の事業を試験的に行い、withコロナ時代に対応した事業展開を模索しました。また、文化団体の皆様には町田市民ホールの休館が影響して文化活動が停滞しないよう、他施設等の紹介や広報の協力など、活動継続のための支援を行いました。

和光大学ポプリホール鶴川では、和光大学と連携してのレクチャーコンサートや連続市民講座を例年どおり開催しました。恒例となっている鶴川ショートムービーコンテストでは、108本の作品応募がありました。実行委員会の皆様と協力し、11月21日は上原正三脚本作品「ウルトラQ」他3作品の上映会&トークショー、11月

22日は入賞作品上映会、11月23日は感染拡大防止対策を十分に取った上での1年ぶりの対面での授賞式を開催し、監督同士や監督と観客との交流が生まれる活発なイベントとなりました。

2 文化の提供事業

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けながらも、感染拡大防止対策に十分配慮し、安全安心に鑑賞できる環境を作り上げつつ、落語公演やクラシック音楽のコンサート、映画上映会、ポップス公演等、コロナ禍でも市民の皆様楽しんでいただける事業を提供しました。

○主催事業

【町田市民ホール】

17事業を実施予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から4事業を中止しました。

感染状況を注視しながら各種補助金を利用し、三井住友海上文化財団 ときめくひととき第904回「成田達輝ヴァイオリンリサイタル」や宝くじ文化公演「ファミリーコンサート オーケストラで聴くジブリ音楽」など良質な公演を安価で開催し大変好評を得ました。また、オリンピック・パラリンピック関連事業としてホストタウンにスポットを当て、市内の様々な団体と連携し数々のイベントやワークショップを開催しました。また、11月から休館となった中、株式会社町田まちづくり公社主催の「原町田大通り滞留空間創出社会実験」に参加し、町田市民ホールの歴史展示を行ったところ、予想を超える大勢の市民の方の来場がありました。

【和光大学ポプリホール鶴川】

26事業を実施予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から6事業を中止しました。

国内外で活躍する若手ピアノ三重奏団「葵トリオ」公演では、多くのお客様から技能の高さに賞賛の声が寄せられました。若手サクソ四重奏「THE REV SAXOPHONE QUARTET」では、若年層のお客様にも多くお越しいただきました。(一財)地域創造との共催で、小中学校でのアウトリーチと組み合わせて開催した「おんかつ」公演では、ソプラノ歌手竹多倫子さんにご出演いただき、これまでクラシックや歌唱に興味を持ってこなかった小中学生の皆さんに音楽の楽しさを伝える事ができ、鑑賞者育成につながる公演になりました。例年行っている若手演奏家による「水曜午後の音楽会」では、常連のお客様が増えて安定した集客につながりました。映画上映会では特色ある映画を多く上映し、映画好きのお客様に市内で安価に良質な映画を観ていただける機会を提供しました。

ホストタウン関連事業として、7月にインドネシア映画「珈琲哲学」を上映した際に、原作本を翻訳した先生や市内珈琲店にご協力いただき、読み物やオリジナルのド

リップコーヒーをお客様に提供し、大変好評をいただきました。8月には市内団体やインドネシア関連団体及び和光大学と連携し、3階の諸室やフリースペースを活用したインドネシア関連のワークショップや物品の展示を行い大変好評をいただきました。

○共催事業

【町田市民ホール】

13事業実施予定していましたが新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から4事業を中止しました。

感染拡大防止対策に十分に配慮した上で、NHKのアニメで人気を博した『ピアノの森』ピアノコンサートや、落語公演を実施しました。中でも「立川志の輔 独演会」は休館前の最後を飾る公演であったため、通常の定員数を満席にするほど多くの市民の方にご来場いただき大好評を得ました。

【和光大学ポプリホール鶴川】

感染拡大防止対策に十分に配慮した上で、落語公演やワークショップと本番公演を組み合わせた子ども向けダンス公演、ポップス公演等、予定していた16事業をすべて開催しました。

子ども向けダンス公演「パフォーマンスキッズトーキョー」では、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で利用率の下がってしまったホールの舞台を、本番だけではなく、本番までのワークショップ会場としても提供することで、コロナ禍の世相を子どもたちなりに移しとった唯一無二のダンス公演を制作することができ、講師や参加者、保護者の皆さんに大変喜んでいただきました。12月に開催した「黒沢秀樹」ライブ公演では、公演と併せてオンライン配信を行い、会場に足を運べない市民の方からも好評をいただきました。

○地域貢献事業

(一社)町田市文化協会により毎年行われている町田市民ホールの「町田市民文化祭 秋の催し」と、和光大学ポプリホール鶴川で行っている「新春文化の祭典 in 鶴川」は、町田市民ホールの休館の影響と新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、実施時期や実施方法及び内容を見直して実施しました。町田市民文化祭は2年ぶりの開催ということで、参加者からは日々のメリハリ、モチベーション向上に繋がったという声をいただきました。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、多くの文化団体の活動が制約された状況が続いていたため、文化団体と積極的にコミュニケーションをとり、協働することで事業の実施や公演動画の公開などを試験的に行い、市内の文化活動の活性化に努めました。

○協力・受託事業

2021年度当初は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から市民の文化活動の停滞がみられましたが、後半からは徐々に再開され、例年は建物内で行っている「茶会」を野点に変更し実施するなど、感染症対策を講じた上で事業を実施するケースが増えてきました。また、感染症対策のみならず、例年は町田市民ホールで実施している事業が休館の影響により他施設での開催になるケースもみられたため、文化団体の負担が増えないよう、通常の協力事業の支援範囲にこだわらず、臨機応変に広報や運営支援などを行いました。町田薬師池公園四季彩の杜西園指定管理者NEST Machida主催「パークミュージアム894『いけばな展 やくしの秋』」では、西園をはじめ薬師池公園、町田ダリア園などの協力を得て、廃棄予定の植物を花材にするなどし、SDGsにも取り組んだ事業を支援しました。和光大学ポプリホール鶴川では、2020年度から延期となっていた「高橋里奈ピアノリサイタル」を開催し、市内在住演奏家による良質な演奏会を市民の皆様にお楽しみいただくことができました。

また、町田市からの受託事業としては、和光大学ポプリホール鶴川においてオリパラホストタウン関連事業としてインドネシアの楽器であるガムランと星空の投影を組み合わせた事業「ガムラン×星空」を2回行い、多くの方にガムランの音色を体感していただき、オリパラホストタウンであるインドネシアへの理解を深めていただきました。

◎ 町田市が設置する文化施設等の管理運営に関する事業（第2号事業）

【町田市民ホール管理運営受託】

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、4月25日から5月11日まで全館休館となりました。また、緊急事態宣言・まん延防止重点措置・東京都リバウンド防止措置などの発令もあり、夜間の時短利用や利用キャンセルが相次ぎましたが、2020年度に比べ利用率は増加傾向となり、ホールの利用率は72.6%、会議室は45.9%、練習室は38.1%、ギャラリーは47.0%となりました。

また、施設の老朽化に伴い、2021年11月から2023年1月までの15ヶ月間休館し修繕工事を町田市が実施しています。今後も町田市が行う計画的修繕とともに、当財団は施設の設備類の経年劣化による緊急修繕を適宜行い、安全安心に利用できる環境整備に努めました。

また、新型コロナウイルス感染症対策として、引き続き正面入口のサーマルカメラ設置や諸室に消毒液の設置など、安全安心に利用できる環境整備に努めています。

【和光大学ポプリホール鶴川管理運営受託】

2021年度の施設利用につきまして、町田市民ホール同様、緊急事態宣言発令等による休館や感染症拡大防止による利用制限がありましたが、ホール・諸室ともに利

用率は2020年度に比べ増加しました。ホールでは配信用収録や関係者内での少人数の催しによる利用が増え、88.4%と高めの利用率となりました。諸室においても制限利用の中、多目的室は54.8%、練習室(2室)は63.2%、会議室(4室)は52.7%、エクササイズルームは63.2%となりました。

密にならない利用の対策として、交流スペース・共用スペースの活用を縮小しましたが、主催・共催事業の再開やオリパラホストタウン関連の催し、市民団体の活動再開にあわせて、全体の利用者数・来館者数も増加傾向となりました。

当施設は2021年度で開館9年となり、空調機やトイレ等の不具合や、雨漏りによる修繕箇所が多く発生しています。これらには早急に対応し、新型コロナウイルス感染症防止対策をしっかりと実施することで、安全安心に利用できる環境整備に努めています。

◎地域における国際交流活動の推進事業(第3号事業)

町田国際交流センターでは、7つのボランティア部会が中心となり国籍や民族などの異なる人々が互いの文化の違いを認め合い対等な関係を築きながら、地域社会の構成員として共に生きていくという多文化共生社会の構築のために4分野の事業を企画しました。

地域文化の創造と国際交流の促進及びまちづくりの視点から、子ども教室や日本語教室、相談事業等の外国籍住民への支援事業や国際理解・国際交流事業を実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、一部の部会活動を除き活動を中止しました。

ただし、感染症拡大により生活支援が必要な外国籍住民のために、外国人相談部会は活動規模を縮小し実施しました。

2022年4月1日現在、104ヶ国7,382人(町田市の人口の約1.7%)の外国籍市民が町田市に居住しています。2021年4月1日と比較すると、173人増加しており、国籍別では、中国2,748人(37%)、韓国969人(13%)、フィリピン671人(9%)、ベトナム623人(8%)、米国258人(4%)となっています。

分野別事業活動

① 外国人支援事業

○日本語教室は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、オンライン(Zoom)による支援活動を行い、学習者45人、支援者31人、延べ1,201回の支援を行いました。

○子ども教室は対面及びオンラインによる支援を46回行いました。その他、「子ども教室お手紙準備会」、「日本語を母語としない親子のための多言語高校進学ガイドンス」、「子ども教室OBOG会」を開催し、延べ子ども11名、保護者1人、支援者40人の参加がありました。

○外国人相談部会では、電話やオンライン、対面による外国人のための生活相談等を週3回実施し、相談件数は113件ありました。

○その他、市内病院等への同行・電話・オンライン通訳29件、町田市等からの翻訳依頼が11件ありました。また、年1回開催の東京外国人支援ネットワーク主催「外国人のためのリレー専門家相談会」では8件の相談がありました。

② 国際理解・協力事業

○外国人支援と国際交流への貢献を目指し、あわせて異文化理解の一環として、5言語（英語、中国語、韓国語、スペイン語、タイ語）9サークルを開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によりすべて中止しました。

○小中学校での総合教育の一環として行われる国際理解教育支援のため、講師の派遣を2つの小学校で行い、132人の子供たちが参加しました。

○国際理解・協力部会は町田発国際ボランティア祭「夢広場」を開催し、8団体が出展、約600人の来場がありました。また、町田市生涯学習センターとの共催事業「外国の音楽とお話しと」を開催し40人が参加しました。

③ 国際交流事業

○国際交流部会が開催している日本文化を紹介するイベントなどは、多くの外国籍住民及び日本人が参加する事業のため、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止しました。そのような中、新規事業として、3月に外国籍住民とオンラインで交流する「おしゃべりくらぶ」を試験的に3回実施し、今後の交流活動の一環として行う準備を進めました。

④ 情報提供・連携事業

○桜美林大学サービスラーニングセンターとの連携事業として大学生10人が子ども教室へ参加しました。ホストタウン関連事業である「南アフリカ・インドネシアと繋がって輪になろう！シリーズ」には10人が参加しました。

○（一社）町田青年会議所7月の事業「多文化共生の実現へ」への地域日本語コーディネーターを講師として派遣しました。

○FC町田ゼルビアホームゲーム外国人招待事業では7ヵ国24人、町田日本語支援連絡会（三者会議）では7人、まちカフェ「食べ物で世界を知ろう」では9人が参加しました。

○地域日本語コーディネーターによる企画「外国人に伝えよう！やさしい日本語」講座をオンライン（Zoom）で開催し、20人が参加しました。

◎ その他この法人の目的を達成するために必要な事業（第4号事業）

〔広報事業〕

町田市民ホール、和光大学ポプリホール鶴川及び町田国際交流センターの事業を広く市民にPRするため、財団情報誌「コンサートガイドまちだ」を年6回、「ぼろんていえ」を年6回発行しました。

また、ホームページ、広報まちだ、市内各所にある掲示板へのポスター掲示や横断幕などにより、市民に様々な形で情報提供を行いました。

〔チケットシステム〕

2017年6月から「かわせみオンラインチケットシステム」で導入しているインターネット予約によるコンビニエンスストア（セブン・イレブン）でのチケット受け取りを推進しました。その結果、2022年3月31日時点での会員登録者数は15,224名で、2021年3月31日と比較すると、1,562名が増加しました。

〔レストラン・カフェ運営〕

町田市民ホールにて「レストラン」を運営していますが、年間営業日数149日（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2021年4月25日から5月11日まで緊急事態宣言による臨時休業行い、4月1日から平日はランチのみの時間短縮営業、土日祝日を臨時休業）で、総客数6,666名の利用がありました。

また、和光大学ポプリホール鶴川にて「カフェ」の運営を行い、営業日数303日（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、4月25日から5月31日まで臨時休業、4月1日から4月24日と6月1日以降3月末日までは閉店時間を早め、短縮営業）で、総客数22,941名の利用がありました。

〔人材育成〕

例年、学生インターンシップ及び中学生の職場体験の受入れしておりますが、中学生の職場体験につきましては新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止となりました。

また、財団では「第二期（2021年度～2025年度）人材育成基本方針」を2021年3月に定め、職員がこれまで以上に経営課題に対応できる人材ビジョンを形成し、モチベーションアップにつながる行動規範等を示し、今後の人員配置や職員研修を実施することとしました。

〔その他〕

2020年度より町田市内産農産物の地産地消への協力のため、町田市民ホール（改修工事前まで）及び和光大学ポプリホール鶴川の入口付近にクックパッドマーケットステーションを設置しました。あわせて、両館の共有スペースに東京都住宅供給公社の住宅情報を配置し来館者に提供しました。

また、改修工事前までは町田市民ホール正面入口エントランスに、町田市の自転車対策への協力としてシェアサイクルの駐輪場（サイクルポート）を提供しました。